

全建 技術研究10事例を発表

全国建設業協会（浅沼健一会長）は27日、東京・大手町の経団連会館で技術研究発表会を開いた。写真。会員企業の技術者の技術力と資質、プレゼンテーション能力の向上が狙いで、全建建設生産システム委員会の「建設工事における施工の工夫・改善事例」に応募があった140件の中から、特に参考になる10事例を各企業が発表した。



冒頭、審査委員長を務める本間達郎新潟県建設業協会会長は「今回の発表事例は効率性を高めるためのアイデア・工夫、品質向上や安全確保などの現場で役に立つ。施工力は高度な技術だけでなく、現場を熟知した技術者が新たな視点での創意工夫を積み重ねるものだ。こうした活動が現場のやりがいにつながると考えている」とあいさつした。

同発表会では、導入しやすさ、汎用性、創意・工夫度、効果、プレゼンテーションなどを総合的に判断し、最優秀賞、優秀賞、特別賞を決める。発表事例は次のとおり。①会社名②発表者③所属建設業協会。▽工事状況お知らせ掲示板の工夫（建築）①岩田地崎建設②浅田浩司建築部建築課工事主任③北海道▽タブレット端末とクラウドを活用した現場管理（同）①山形建設②區藤伸郎建築部課長③山形▽環境対策コスト削減汚濁防止シートの自作（環境）①鈴縫工業②駒木根栄土木部工事長③茨城▽ガラスカレットを用いたソルバック工法による地盤改良（同）①本間組②栗城浩美住宅事業部課長③新潟▽新技術を活用した施工管理（安全・工程・環境）（土木）①荒井建設②三國吉典土木技術部第二技術提案グループ長③北海道。▽敷鉄板設置時の荷ぶれ防止（同）①岸本組②小松武司工事部次長③同▽被覆根固ブロック据付の安全性と施工性の向上（同）①渡辺建設工業②小松宏工事部土木課土木課長③同▽アスファルト舗装密度の測定方法（同）①丸本組②齋藤雅之土木部土木課工事主任補③宮城▽呼びかけるのぼり旗で安全意識の継続を図る（同）①佐田建設②長井光弘土木本部工事部工事課長③群馬▽i Pad（タブレット型コンピュータ）を用いての現場での早急な対応（同）①ソネック②香西利計施工部土木部所長③兵庫。

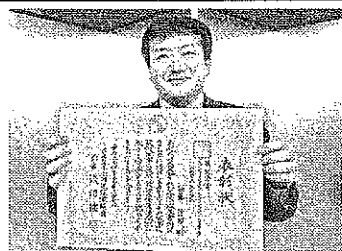
山形建設が最優秀賞

IT活用し冬季 コンクリ温度管理

全建
技術研究発表会

全国建設業協会（全建）が27日に開いた本年度の技術研究発表会で、「タブレット端末とクラウドを活用した現場管理―寒中コンクリート初期養生温度管理の工夫―」を紹介した山形建設（山形県）が最優秀賞に選ばれた。同社の受賞は2度目。同社の区藤伸郎建築部建築課課長は「アイデアを出したのは自分だが、部下が努力して形にしてくれた。皆

最優秀賞を受賞した
山形建設の区藤氏



で喜びたい」と語った。特別賞は「ガラスカレットを用いたソルバック工法による地盤改良」を発表した本間組の栗城浩美住宅事業部課長に贈られた。

山形建設は、山形市発注の「（仮称）西消防署新築建築工事」で導入した事例を発表した。同社では、冬季にコンクリートを打設した際、初期養生期間はジェットヒーターで加熱しているが、そのたびに社員が夜間に現場に出てコンクリート温度を確認していた。通路が凍結しているため危険があり、加熱していない時も社員が泊まりがけで温度をチェックしなければならず、負担になっていた。

山形建設は、山形市発注の「（仮称）西消防署新築建築工事」で導入した事例を発表した。同社では、冬季にコンクリートを打設した際、初期養生期間はジェットヒーターで加熱しているが、そのたびに社員が夜間に現場に出てコンクリート温度を確認していた。通路が凍結しているため危険があり、加熱していない時も社員が泊まりがけで温度をチェックしなければならず、負担になっていた。

区藤氏は「現場に行かずに済むので（事故が）必ずゼロになる。便利さだけを追求したように見えるかもしれないが、厳しい環境の中で働く仲間への負担を減らしたいという思いがあった」と話した。リアルタイムでの観測が可能になったことで、無駄な加熱養生がなくなり、燃料費も半減したという。このほか、タブレット端末を新規入場教育や発注者の検査などにも活用。現場事務所に作業員が自由に専門書を閲覧できる図書コーナーを設け、知識の向上も図っているという。

発表会後の懇親会では、浅沼会長が「発表された取り組みは、誇りにもつながるし、将来展望にもつながる。全建らしい創意工夫で技術の発展にこれからも尽くしていただきたい」と語った。

創意工夫の優秀 10事例水平展開

全建技術研究発表会

全国建設業協会(全建、浅沼健一会長)は27日、東京・大手町の経団連会館で12年度の技術研究発表会を開いた。全建が毎年まとめている「建設工事における施工の工夫・改善事例集」に応募があった142事例のうち、特に優秀と認められる10事例が紹介された。



冒頭、審査委員長を務める本間達郎副会長(建設生産システム委員会委員長)は「日ごろから問題意識を持ち、新たな視点で創意工夫を重ねていることに敬意を表したい。技術者不足が言われる中、やりがいにもなる

と期待している。発表事例を各現場の業務に生かしていただきたい」とあいさつした。写真。

発表事例と発表企業(所在地)は次の通り。
▽工事状況お知らせ掲示板の工夫(岩田地崎建設(北海道))
▽タブレット端末とクラウドを活用した現場管理(山形建設(山形県))
▽環境対策・コスト削減・汚濁防止シートの自作(鈴縫工業(茨城県))
▽ガラスカレットを用いたソルパック工法による地盤改良(本間組(新潟県))
▽新技術を活用した施工管理(安全・工程・環境)(荒井建設(北海道))
▽敷鉄板設置時の荷ぶれ防止(岸本組(同))
▽被覆根固めブロック据付の安全性と施工性の向上(渡辺建設工業(同))
▽アスファルト舗装密度の測定方法(丸本組(宮城県))
▽呼びかけるのぼり旗で安全意識の継続を図る(佐田建設(群馬県))
▽iPad(タブレット型コンピュータ)を用いての現場での早急な対応(ソネット(兵庫県))。

すぽと

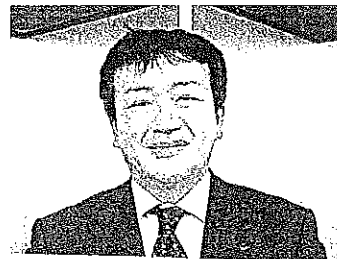


表
「建設現場の危険は、『減災』が基本だ。しかし、今回は現場に入らなくてよく、危険性がゼロになった点が画期的だ」と自負している。夜間監視がなくな

社員の負担を軽減したい

「昼間の作業にも目がいくようになった」。さらに、「コンクリートの温度推移が表になる」ため一定の温度であれば加熱が不要になることに気づくなど、技術的發展という付随的効果も表れた。熟練工の減少も危惧（きぐ）している。「知らないでは済まない」。技術力を維持する

全国建設業協会の2012年度技術研究発表会で最優秀賞に輝いた「タブレット端末とクラウドを活用した現場管理」は、冬季のコンクリート温度の測定数値をタブレット端末に表示できるようにした。温度監視のため「社員が何日も泊まりがけで現場に出動しなければならぬ」という現場では、暗い現場に入る危険な作業もつきまとった。

金建技術研究発表会で最優秀賞に輝いた山形建設建設部課長

區藤 伸郎氏

るため、作業員が建築技術

「建設現場の危険は、『減災』が基本だ。しかし、今回は現場に入らなくてよく、危険性がゼロになった点が画期的だ」と自負している。夜間監視がなくな

減したい」という気持ちだが、端末による遠隔監視を可能にする技術を生み出した。

「（受賞技術が生まれたのは）部下たちに、形によつという気持ちがあったから。これを見て、自分も表彰を受けようという気持ちになつてもうえれば」と話す。

「何とか社員の負担を軽減したい」という気持ちだが、端末による遠隔監視を可能にする技術を生み出した。

「建設現場の危険は、『減災』が基本だ。しかし、今回は現場に入らなくてよく、危険性がゼロになった点が画期的だ」と自負している。夜間監視がなくな

「建設現場の危険は、『減災』が基本だ。しかし、今回は現場に入らなくてよく、危険性がゼロになった点が画期的だ」と自負している。夜間監視がなくな

（啓）